



UNIC Tokyo Dateline UN

July/August 2005 Vol.58

国際連合広報センター

ちきゅう
みんなの地球をかんがえよう
Earth
~WONDER EYES~
子どもたちのまなざし



© S.P.CO.

Mr. フレンドリー：
世界中にハッピーを届けたい！ と願うMr. フレンドリーは、スマイルと愛のあふれる地球を求めて活躍しています。持続可能な開発を応援して本展示イベントのナビゲーターを務めます。

恒例となった夏のUNギャラリー展示が2005年7月19日(火)から始まります。今年の展示は「みんなの地球を考えよう～“ワンダーアイズ”子どもたちのまなざし」です。

ギャラリーでは、世界の子どもたちが撮った作品による「ワンダーアイズ写真展」や持続可能な開発を楽しく勉強できる「持続可能な開発まなびボード」、世界8カ国の環境問題をテーマ別に紹介した「エコ・ネイションゲーム」など、地球の未来を考えるヒントがいっぱい。「地球調査ビンゴ」に挑戦すれば、より理解が深まる上にプレゼントのチャンスもあります。このほか、オーストラリアの先住民アボリジニにならって、オリジナルのブーメランを作ったり、世界五大大陸の民話を紹介する人形劇(毎週土曜日)も楽しめます。

なおこの機会に、愛・地球博の国連館ギフトショップで人気の品を特別にUNギャラリーでご紹介します。国連創設60周年記念ロゴ入りグッズにもご期待ください。

展示「みんなの地球を考えよう」は8月31日(水)まで(日曜日休館、入場無料)。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

私たちが住む地球は、今生きている私たちだけで「使い切る」ために過去から引き継いだものではなく、未来の子孫からの「預かりもの」です。それなのに地球はみんなが平等に人間らしい生活を送る場所になっていません。

UNギャラリー夏の展示は、国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」のスタート年を記念して、将来この地球を未来に引き継ぐ子どもたちに、環境だけでなく、経済、社会、文化などより広い視点で地球を考えるきっかけになります。



UNギャラリーは「渋谷スタンブラリー」に参加しています。

INSIDE

愛知万博で国連デーを祝う	2-3
国連憲章署名60周年に寄せるアナン事務総長メッセージ	3
ミレニアム開発目標報告2005	3
「より大きな自由を求めて」万博で学生が国連について討論	4-5
寄稿：中東メディア・セミナー	6
グローバル・コンパクト 世界の動き：フランス	7
UNGallery： 愛・地球博の人気者をご紹介	8

<http://www.unic.or.jp/>

愛知万博で国連デーを祝う

文・国連広報センター所長 野村彰男

「自然の叡智」をテーマとする愛知万博は開幕から3カ月の折り返し点を通しました。その直後の6月27日、万博ドームで「国連デー」を祝う式典が招待者や多数の地元小中学生をまじえて盛大に開かれました。今年は国連創設60周年にあたりますが、世界50カ国の代表がサンフランシスコで「国連憲章」に署名したのが1945年6月26日だったのです。26日は日曜日だったため、ニューヨークの国連本部の「国連憲章署名60周年」の式典も27日に開かれました。



愛・地球博の国連デーを祝って

万博ドームにおける「国連デー」式典では、まず渡辺泰三・愛知万博日本政府代表が、国連館建設の資金を提供してくれた「公益信託日本動脈硬化予防研究基金」をはじめ国連館出展に向けた各方面の協力に感謝し、国連館の存在が愛知万博にいつそうの国際性をそえていると述べ、次いで豊田章一郎・万博協会会長が国連の幅広い活動を称え、「多様性の祝祭」をテーマとする展示が愛・地球博のテーマとも響きあうものであると祝辞を述べました。

これを受けて、国連機関を代表して国連館出展の責任を担った国連教育科学文化機関（ユネスコ）の松浦晃一郎事務局長が、「より大きな自由を求めて生活水準を向上させるといふ目標実現のため、開発と安全保障、人権のすべてで進歩を遂げなければならない」とするコフィー・アナン事務総長の「国連憲章署名60周年」によせたメッセージを代読しました（次ページ参照）。また、万博

ドームを埋めた1,850人の小中学生に、国連の活動への関心を持ち続けてほしいと呼びかけました。

このあと、小中学生を対象に、国連加盟国の数やユネスコの世界遺産の数など国連にまつわる勝ち残り「クイズ」があって、正答が発表されるごとに子どもたちの大きな歓声が場内に響きました。参加校へはNHKの橋本元一会長とTBSの井上弘社長から世界遺産のビデオなどが教材として贈られました。



子ども記者の質問に答える松浦ユネスコ事務局長

松浦事務局長は国連館で記者会見

し、10年前、カナダのカルガリーに競り勝って愛知県が万博開催地と決まったとき、駐仏大使として愛知誘致に力を尽くしたことなど、長い愛知万博とのかかわりや、今年から始まった「持続可能な開発のための教育の10年」にける思いなどを語りました。

最後に、ユネスコが「人類の口承および無形遺産の傑作」として宣言した世界の無形文化遺産の中から、声楽家と太鼓奏者による胸に染み入るような韓国のパンソリ、アゼルバイジャンの古典であるムガム音楽、陽気で力強いグルジアの多声音楽と民族舞踊の「ルスタビ」、そして日本の人形浄瑠璃がそれぞれ実演されました。

これらの無形文化は、この日夕方にも、万博ドームで訪れた一般客を対象にたっぷり披露され、世界各国に残る文化遺産の多様さと魅力が人々を魅了しました。

国連憲章署名60周年に寄せる アナン国連事務総長メッセージ

60年前、世界50カ国の代表はサンフランシスコで、国連憲章に署名しました。

連合国民の名において、これら50カ国は、将来の世代を戦争の惨禍から救うことを誓ったのです。その文言は、人類全体の記憶の中に深く刻まれています。

各国は基本的人権、人間の尊厳、そして男女間および大国・小国間の平等な権利に関する信念をあらためて確認しました。

各国は、正義と法の尊重とを維持できる条件を確立することを誓いました。

各国は、より大きな自由を求めて社会的進歩と生活水準の向上とを促進することを約束しました。

以後60年間、国連はこの誓いを果たすよう努めてきたのです。

今日、新世紀を迎えた私たちは、新たな脅威や挑戦、そして同時に新たな機会にも直面しています。

「より大きな自由を求めて生活水準を向上」させるという目標は、私たちの手の届く範囲にあります。その実現のため、私たちは開発、安全保障、人権という3つの側面すべてで進歩を遂げなければなりません。

国連の歴史上、今ほど勇断が必要な時期はありませんでした。また、それが可能な時期もありませんでした。

今年の9月、2005年世界サミットに参加する191カ国の指導者には、こうした決定を下すチャンスが訪れます。全世界の人民である皆さんからの支援と働きかけがあれば、決定は必ず下されることでしょう。（一部略）

ミレニアム開発目標報告2005

世界的な貧困改善も、人間の生存ニーズ充足には大きな隔たり

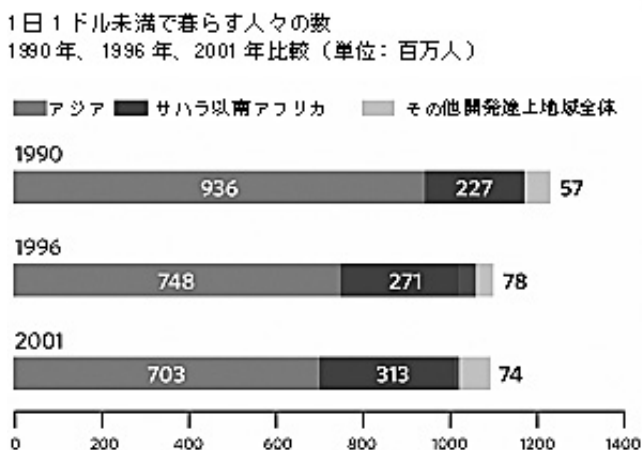
国連は2005年6月9日、世界の現状を映し出す報告書を発表しました。それによると、アジアでは貧困の解消がかつてないスピードで進む一方、多くの地域において、母子が治療と予防の可能な原因から命を失い、開発途上国に住む人々の半数が簡易衛生設備さえ利用できないような状況にあります。

『ミレニアム開発目標報告2005(Millennium Development Goals Report 2005)』によれば、1990年以来、開発途上地域で人口が8億人以上増えているにもかかわらず、極端な貧困の中で暮らす人々の数は全世界で1億3,000万人減りました。

貧困は、歴史上どの時代とも比べものにならない速さで減少しています。その先頭に立つ東アジア、東南アジア、南アジアの諸国では、極貧人口が1990年以来、2億3,000万人も減りました。ラテンアメリカ・カリブ海地域でも大きな前進が見られます。

このような改善が見られる一方で、サハラ以南アフリカをはじめとする他の地域では、極貧人口が1990年の2億2,700万人から、2001年には3億1,300万人へと増大しています。これらを総合すれば、10億人(開発途上国人口の5人に1人)が依然として、1日あたり所得が1ドル(1993年基準米ドル)という極貧ライン以下で暮らしていることとなります。サハラ以南の極端に貧しい人々を見ると、1日あたり平均所得は実際のところ、1990年の62セントから2001年には60セントへと落ち込んでいるのです。

それでも、世界人口に占める極端に貧しい人々の割合が1990年の28%から2001年の21%へと減少したことは、1990年以来の傾向が続けば、極貧人口の半減という目標が2015年という期限を待たずに、全世界で実現できることを意味しています。



ミレニアム開発目標報告2005に関する日本語プレスリリースは
<http://www.unic.or.jp/new/pr05-056-J.htm> で読むことができます。

アナン事務総長の勧告を検討

2005年7月1日、激しい雨のなか、大学生・大学院生合わせて65名が愛・地球博の国連館に集い、コフィー・アナン国連事務総長が今年3月21日に発表した「*In Larger Freedom*: より大きな自由を求めて: すべての人のための開発、安全保障および人権」と題する報告書について討論しました。

アナン事務総長はこの報告書により、世界の指導者に対して開発、安全保障、人権という課題に取り組み、国連を全面的に再編するための新たなグローバルな決定を要請しています。報告書に含まれる勧告は、今年9月に国連本部（ニューヨーク）で開催されるサミットの場で、世界の指導者たちが下すべき決定のたたき台となるものです。

討論会に出席した学生たちは、さまざまな大学から参加しました。地元の愛知県からは名古屋大学、南山大学および中部大学。関西からは大阪大学、神戸大学、京都大学、京都外国語大学および立命館大学。そして関東からは津田塾大学、聖心女子大学、模擬国連委員会に所属する学生（東京大学、慶応義塾大学、早稲田大学および学習院）です。

学生たちは事前に配布された資料

（事務総長の報告書 *In Larger Freedom*、日本と世界から選んだ同報告に関する10の社説）を読んで参加しており、会場では7つのグループに分かれて討論しました。社説は日本の新聞（6社）と中国、イギリス、アメリカおよびインドから選びました。

討論会の進行

まず、主催者を代表して国連館館長のマリア・ヘレナ＝ヘンリケス・ミュラー氏（ブラジル）が歓迎の言葉を述べた後、野村彰男・国連広報センター所長が今回の企画の背景について説明を行いました。

その後、学生討論のモデレーターを務める津田塾大学国際関係学科の大泉敬子教授が具体的な作業について詳細を説明しました。また当センターのインターンが用意したパワーポイントによる *In Larger Freedom* の説明も行われ、討論に入る前に事務総長報告の勧告が再確認されました。

グループごとの作業では、自己紹介の後、各グループが受け持った社説について討論を通して客観的に分析・整理し、さらにコメントをしました。これに加え、各グループは受け持った社説に限定されることなく、*In Larger Freedom* に関して21世紀を担う若者としての意見や提言をまとめました。最後の全体会議では、グループ作業を基に国連のあるべき姿、加盟国への期待、私たち市

より大きな自由を求めて

～愛・地球博で学生が国連について討論～

国連広報センターは国連創設60周年を記念して、愛・地球博の国連館との共催により、学生による討論会「私たちの国連、共に考えよう。～ *In Larger Freedom* ～より大きな自由を求めて」を開催しました。21世紀を担う若い人は国連にどのような働きを求めているのでしょうか。討論会の様子をご報告します。

民ができることなどに関して活発な議論が繰り広げられました（議論の内容は後日、国連広報センターから各方面に発信する予定です）。

グループ発表

- 1) 日本の社説
事務総長勧告が包括的に国連改革を述べているのに対し、日本の社説のほとんどが、国連改革の中でも特に安全保障理事会（安保理）の改革に焦点を当て、改革案のA案、B案に言及したうえで、日本が常任理事国（以下、常任理）になるという課題について論じている。
常任理になる条件に関しては、日本は平和維持活動における実績や財政負担によって既にクリアしている、という論調もある。一方、常任理になるためにはどうしたらよいかに関しては、アメリカのサポート

を十分に得ているか、または、近隣のアジア諸国からの賛同を得ているかなどの課題が存在することを指摘している社説がある。

- 2) 常任理とそれ以外の国の社説
今回選んだアメリカ、イギリスおよび中国の社説は、既に安保理の常任理という立場から極めて客観的に事務総長報告を扱っており、「実際に改革が実現するのか」という疑問を投げかけるなど、日本の社説とは違った見方となっている。また、現常任理の社説の論調とこれから常任理を目指す国（日本とインド）の間には、事務総長報告実現への期待感を含め、明らかな温度差がある。

- 3) 野村所長のコメント
議論で分かったことは、どうやら社説には国籍があるということだ。また、常に紙面のスペースと締め切

り時間という制約があり、その時々で何に重点を置いて書くかが決められるので、全体像を示せない結果になりがちである。国連改革は歴史적인見ても効率性の追求と組織の民主化の推進という両面がある。国連は、加盟国の力で成り立っているものの、地球益の提示や時代を貫くメッセージを送るなど事務局として国連の重要な役割を果たしている。

学生たちの意見と提言

- a) 「より良く生きる」ことが私たちすべての望みであるなら、国益と世界全体の利益にはさほど隔たりは無いのではないかと。国益と地球益を融和できるのが国連なのではないか。
- b) *In Larger Freedom* にある民主化は、必ずしも全ての国で同様に受け入れられないと思う。国や地域によって価値観は異なり、各々の歴史、文化、伝統などにより合った民主化の道りが追求されるべきだ。
- c) 国連はNGOやプライベート・セクターなど市民社会との関係をより密にすべきだ。NGOがどれだけ私たちを代表しているか、その正当性に問題は残るが、国連はNGOとの対話を強化し、彼らが考えていることをもっとその政策に組み入れるべきだ。
- d) 国連は、もっと世界の市民社会に

対して直接に *In Larger Freedom* のアピールをするべきだ。

e) 国連は、より普遍的な組織になるべきで、その立場からアメリカという大国に物怖じせず実効力を高めてほしい。同時に、アメリカに対しては、国連にもっと協調し地球益を考えてほしいと言いたい。

f) 日本としては、常任理になって何をしたいのかをもっと明確にするべきであり、アジア地域との友好関係を市民レベルでの交流を通して深めていくべきである。

g) いかなる国も今の自国の利益を考えるだけでなく、長期的視野に立つて次世代の利益を考えるべきだ。

大泉教授のまとめ

国連の役割は、大きく二つあると言える。加盟国の集う「フォーラム」として、そして政策を決定・実行する「アクター」としての役割。各国の国益を調整し、世界共通の利益を見出して発信するのが国連の役目だろう。その点で、アナン勧告が加盟国の能力強化を目指しているのに対し、国家間機構という従来の国連のあり方を脱して市民社会をも含む新しい形に変えるべきだ、という今日の議論は、国連改革論議を更に根源へと進める意味を持つものだったと感じる。



参加した65名の学生が7つのグループに分かれて討論



事務総長報告に関する世界の新聞社説を比較検討



討論の結果をグループ発表にまとめる学生たち



各グループから討論の結果が発表された



熱心に耳を傾ける参加学生たち

Special thanks!

開催にあたり、以下の国連グローバル・コンパクト参加企業にご協力いただきました。アマタ株式会社、アルファー・イー・コー株式会社、株式会社エス・エス・アイ・ジェイ、坂口電熱株式会社、株式会社ジャパン・エナジー、株式会社 東芝、フルハシ工業株式会社、株式会社ミレアホールディングス/東京海上日動火災保険株式会社、株式会社らいふ

(50音順)

中東メディア・セミナーに参加して

毎日新聞専門編集委員・西川 恵

国連広報局が主催するメディア・セミナーに、日本のメディアを代表して毎日新聞社の西川恵氏が参加しました。以下は西川氏によるセミナーの報告です。

国連が6月13、14の両日、カイロで主催した「中東和平に関する国際メディア・セミナー」に参加した。

カイロはパリ、ローマ特派員のとときに中東取材でよく立ち寄った町である。特派員だった1980年代から1990年代にかけて、イラク・イラク戦争の停戦や湾岸危機・戦争があった。そのたびに2、3日、カイロに立ち寄ってサウジアラビアやイラクに入国するためのジャーナリスト・ビザを入手した。喧騒とどこか猥雑さがあるこの町が私は大好きだ。セミナー参加の話があったとき、カイロと聞いただけで、不謹慎ながら会議が何をやるかまだ十分わからないのに、半ば同意していた。

さてよくよく聞くと、包括的で永續するパレスチナ問題解決の中東和平に国際・地域のアクターはどのような役割を果たせるかというのがテーマである。世界から国際報道に携わるジャーナリストのほか、中東和平にかかわる国連、関係国の政策担当者が参加した。しかしセミナーをボイコットしているイスラエル政府からは誰も参加しなかった。

同政府が公約しているガザ地区からのイスラエル軍の撤退実施が迫っている。これが中東和平プロセスへの第一歩となるのか、それともこの撤退のみで終わるのか、行き先不透明感が漂っているが、セミナーでは悲観的な見方が多かった。何度となく裏切られつづけた中東和平に、国際社会は悲観的に見る姿勢が身に付



西川 恵氏

いてしまったようだ。

セミナーでは興味深い議論がさまざまに出たが、ここでは2日目最後のパネル「イスラエル・パレスチナの和平と紛争におけるメディアの役割」で、パネラリストとして出席したイスラエル紙「ハーレツ」のジャーナリスト、ギデオ・レビ氏の発言を紹介したい。同氏はパレスチナの人々の置かれた悲惨な状況を克明に報道し続け、パレスチナからも高い評価を受けている。

レビ氏はイスラエルのジャーナリストの抱える問題をこう指摘した。「パレスチナのことを書いても、イスラエル政府から圧力はかからない。編集幹部からの執筆制限もない。問題はジャーナリスト自身がパレスチナ人が置かれた状況を知りつつ、書こうとしない自己規制にある」

パレスチナ人のテロを理由としたイスラエル軍の過剰攻撃。テロにかかわった人間を出した一家の家はただちに破壊されるというイスラエル軍の非人道的行為。一切合財を失った家族が行く場所は難民キャンプし

がなく、パレスチナ人をテロリストに育てているのはイスラエル政府自身。こうした事実をイスラエルの多くのジャーナリストは書かないとレビ氏は批判する。

パレスチナ人の悲惨さを書く、批判の投書がくる。「苦しんでいるのはイスラエルなのに、なぜイスラエル人のお前がパレスチナ人の肩をもつのだ」と。「ジャーナリストとして不正と不正義を見過ごすことはできない」とレビ氏は言う。

ではメディアは和平に貢献できるのか。レビ氏は「ジャーナリストの仕事は事実を報じること。和平に貢献するために書くわけではない」と否定的だ。他のジャーナリストからも同様の感想が出た。私も同感だ。会場のアラブ人は「イスラエルは嫌いだ、レビ氏のようなジャーナリストがいたことを知ってよかった」と語ったが、パレスチナ側はこうしたイスラエル人の中の理解者をもっと取り込んでいくことを考えてもいいのではないかと。

レビ氏が初めてアラブの国に行ったのは1977年、イスラエル・エジプトの国交樹立交渉の代表団についてカイロを訪れたときだったという。「危険だからホテルから出るなど注意されたが、お構いなくカイロの町を興奮して歩き回った」。カイロ好きは皆同じなのだ、と私はレビ氏の言葉を聞きながら思ったのだ。

グローバル
コンパクト
世界の動き

France

MDGs 関連の国際会議、開催



C UN Photo #NICA 78865 by E. Debebe

パリで開かれた「ミレニアム開発目標に対するビジネスの貢献」会合に出席した（左から）アナン事務総長、シラク仏大統領、ブレア英首相

国連の提唱する「ミレニアム開発目標（MDGs）」達成をテーマとした国際会議が2005年6月14日、シラク仏大統領の主催によりパリで開催され、国連グローバル・コンパクト参画企業の経営者が、世界各国から約140名参加しました。現在35社が参画している日本からは、三井物産株式会社の林康夫副社長（欧州三井物産社長）が参加しました。

午前の部では、主催者のシラク大統領に加え、主賓として招かれたアナン国連事務総長並びにブレア英首相によるスピーチが行われました。その中で、アフリカ諸国への援助の増額、債務軽減、貧困の撲滅、衛生・教育インフラの整備などの必要性が説かれました。また、アフリカ問題は7月のグレンイーグルス・サミットでもメインテーマとして取り上げられることや、ビジネスと政府の間の強力なパートナーシップ（Private-Public Partnership）の重要性等も説明されました。

午後には5つのテーマ（ファイナンス、ガバナンス、エイズ等撲滅、教育、環境）で分科会が開催されました。各分科会は議論のポイントをまとめて全体会議に報告しました。三井物産はファイナンスの分科会に参加しましたが、同分科会では「ビジネスと政府の協調はアフリカでも十分可能であるが、投資に対する適正なリターンは必要であること」、「政府とビジネスの間では対話をより積極的に行い、適切な Give and Take の関係が必要であること」、「インフラ整備に重点を置くべきこと」などが議論されました。

（文・三井物産株式会社 経営企画部）

トピックス @UN

「10の物語」がウェブサイトが登場

国際社会の重要な問題でありながら、メディアで取り上げられることが少ないために、ほとんど知られていない数々の出来事があります。国連広報局は、こうした出来事をメディアが積極的に報道し、また世界の人々にも関心をもってもらうため、キャンペーン「10の物語 - 世界の人たちに知ってほしいこと」を展開しています。

「サハラ以南のアフリカにおけるエイズ孤児の問題」、「タジキスタン - 内戦の廃墟からの前進」、「自ら孤立して生活するアマゾンの先住民族」ほか10の物語は、国際社会が現在抱えている問題がいかに多様であるかを、改めて気づかせてくれます。

「10の物語」は当センターのホームページ（<http://www.unic.or.jp>）で読むことができます。なお、既掲載分に加え、新たに発表された2005年版の10篇も近日中にご紹介する予定です。ぜひご一読を。

トピックス @UN

夏休み、子ども対象ライブラリー・ツアー

UNハウス2階の「UNライブラリー」では、どのような資料を所蔵し、どんな仕事をしているのでしょうか。8月下旬、UNドキュメンテーションサービスは恒例の「子ども対象ライブラリー・ツアー」を実施します。

スタッフがUNライブラリーを案内しながら、国連や国連資料のABCをわかりやすく説明します。日頃、学校や地域の図書館をよく利用したり、国連の専門図書館とその所蔵資料に興味のある方はぜひ、ご参加ください。

【内容】国連と国連資料の基礎知識、UNライブラリーにおける資料収集や整理の仕事、カウンターやレファレンス業務に関する案内、所蔵の国連資料（国連創設当初からの主要機関公文書や国連発行書籍など）、国連文書検索ツールの使い方など。

【日時】2005年8月22日（月） - 26日（金）

10時～14時（中学生・高校生は全3時間半、
幼児・小学生は1時間程度のプログラム）

*参加人数は毎回10人程度となりますので、お早めにお申し込みください。詳しくはUNドキュメンテーションサービス（Tel:03-5467-1305、<http://www.unic.or.jp/un-ds/index.html>）まで。

愛・地球博「モリゾー&キッコロ」 国連切手シート、誕生



国連郵政部門は「愛・地球博」の公式キャラクター「モリゾー & キッコロ」の記念切手を発行しました。2005年6月27日の万博・国連デーに合わせ、万博会場内（グローバル・コモン2）の国連館ギフトショップで発売されています。

切手シートの販売価格は、1シート（37セント切手20枚+モリゾー & キッコロのイラスト20枚）で2,900円。切手シートには、国連のロゴマークや安全保障理事会議場などの絵柄とともに、モリゾー & キッコロの愉快的なポーズがプリントされています。

なお、この国連創設60周年・万博記念切手は開催期間中の9月25日までの特別販売です。お問い合わせは国連館ギフトショップ（Tel:0561-64-7362）までどうぞ。

国連館で人気のUNグッズを ギャラリーで紹介



国連館ギフトショップでは、国連創設60周年記念グッズをはじめ、さまざまな国連グッズを販売しています。

中でも注目は、60周年を記念して特別に作られた「国連館キティ」。愛・地球博のテーマにちなんだエコキティと共に、多くの来場者を魅了しています。

このほか、国連60周年記念グッズ（Tシャツやタオル、帽子など）、国連館グッズ（文具、キーホルダーなど）、世界の国のミニフラッグや地球儀といった国連ならではのグッズも人気を集めています。

UNギャラリーでは、この夏、国連館グッズの中から人気アイテムを選び、販売する予定です。



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UNハウス8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic@untokyo.jp